

森林や環境に関心の強い研究者とジャーナリストで構成する森林環境研究会（メンバーは別項に記す）は、森林文化協会の専門委員会として年間の研究テーマを選び、その成果を年報という形で発表している。森に生きるさまざまな動植物からの恩恵を受けながら暮らす、私たち日本人の生活について議論を重ねる中で、今回の「森のめぐみと生物文化多様性」というテーマに行きついた。生物多様性については過去に2度、テーマとして取り上げたことがあった。そこへ新しく「文化」の視点が加わったことで、より日常の生活に身近な問題として、多くの方々に森との関わりについて、考えてもらえれば何よりの喜びである。

そのほか、熊本地震やフェアトレードなどの注目すべき話題については、トレンド・レビューのコーナーで論考を取り上げた。また、緑のデータ・テーブルには、2016年における朝日新聞の報道と各種プレスリリースから重要と思われるものを収録し、森林や環境をめぐる1年間の動きをたどれるようにした。

この年報が、これまで以上に多くの方々に読まれ、森林文化協会が理念とする「山と木と人の共生」に向けての歩みが、少しでも進むことを願っている。

森林文化協会 米山正寛

